単元名

　読んで感じたことや考えたことをまとめよう

「ごんぎつね」

第４学年　Ｃ読むこと

内容のまとまり

第３学年及び第４学年

〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〔思考力，判断力，表現力等〕「Ｃ読むこと」

小学校国語科　胆振教育研究所

キーワード　グループ活動を通して多様な考え方への気付きを促す活動

１　単元の目標

(1) 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，語彙を豊かにすることができる。

(2) 登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができ

る。

(3) 文章を読んで感じたことや，考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

(4) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合お

うとする。

２　単元で取り上げる言語活動

物語を読み，考えたことを話し合う。　　　　（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕Ｃ(2)イ）

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，語彙を豊かにしている。((1)オ) | ①「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（Ｃ(1)エ）②「読むこと」において，文章を読んで感じたことや，考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（Ｃ(1)カ） | ①学習の見通しをもって，読んで考えたことを話し合い，一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。 |

４　指導と評価の計画（全９時間）

「・：指導に生かす評価を行う代表的な場面」，「○：全員の学習状況を記録に残す評価を行う場面」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 評価規準（評価方法） |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| １・２・３ | 学習のねらいや進め方を捉え，学習の見通しをもつ。「ごんぎつね」を読み，内容の大体を捉える。初発の感想を書き，読み合う。 | ○知①（行動観察，ノート分析） |  |  |
| ４・５・６・７本時 | ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面はどこかについて考えをまとめる。※取り上げる場面　③と⑥うなぎのいたずらへの償いを始める場面のごんと兵十の様子や行動，気持ちを想像する。（③の場面）ごんが兵十に撃たれてしまう場面のごんと兵十の気持ちの変化を考える。（⑥の場面）学習課題に示された，ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについて，友達と考えを交流する。 |  |  | ・態①（行動観察，ノート分析） |
|  | ・思①（行動観察，ノート分析） |  |
|  | ○思①（行動観察，ノート分析） |  |
|  | ・思②（行動観察，ノート分析） | ○態①（行動観察，ノート分析） |
| ８・９ | 交流したことを基に，新たに感じたことや考えたことを文章にまとめる。 |  | ○思②（行動観察，ノート分析） | ・態①（行動観察，ノート分析） |

５　本時案（７／９）

（1） 本時の目標

　　　物語や登場人物についての考えを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

（2） 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○学習活動　・児童の反応 | ◇留意点　☆評価 |
| 導入 | ○今日の学習の見通しをもつ。自分の考えと友達の考えをくらべながら，交流しよう。 | ◇事前に児童の記述を確認しておき，グループを作っておく。◇話合いの目的や方法について確認させる。 |
| 展開 | ○テーマ別のグループに分かれて話し合う。テーマ例①ごんや，兵十はどんな人物だったか②ごんの償いの気持ちは，兵十に伝わったか③物語の結末についてどう思うか交流の流れ・児童の発表・質疑応答・聞き手が自分の考えとの共通点や相違点について発表・ごんはうなずいたので，二人の心は通じ合ったと思う。・ばたりとじゅうを取り落としたので，後悔の気持ちがあると思う。・兵十は，ごんの気持ちを知らないと思う。○話合いの結果を共有し，全体で考えを深めたいことについて話し合う。 | ☆態①感じ方に違いがあることに積極的に気付こうとしている。（行動観察）自分の考えとの共通点や相違点について注目しながらメモを取ったり，発表したりする姿を見取る。☆思②考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（行動観察）◇何を根拠にその考えに至ったかを発言させるように司会役に促す。 |
| 終末 | ○交流を通して，気付いたことを書く。友達の意見を参考にして，多面的に考えたり，自分の考えをよりよくしたりしている姿を見取る。 | ☆態①感じ方に違いがあることに積極的に気付こうとしている。（ノート分析）◇話し合う前と後で，自分の考えはどのようになったかノートに書かせる。 |

６　「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実際

○　第７時における行動観察・ノート記述の評価

行動観察やノート分析を基にして評価をするため，以下の【表】のように具体的な学習状況を設

定した。なお，ここでは「思考・判断・表現」の姿を目標として示すことでそこに向かう「主体的に学習に取り組む態度」を評価することができることから，「思考・判断・表現」の姿を示している。

【表】ノートの記述内容を評価する際の児童の学習状況（第７時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の学習状況 | 具体的な記述例 |
| 評価規準 | ①学習の見通しをもって，読んで考えたことを話し合い，一人一人の感じ方などに違いがあることに積極的に気付こうとしている。 |
| 「おおむね満足できる」状況 | 話合いを通して，友達の意見や考え方を参考にしたり，違いについて考えたりして記述している。 | 例：私はごんと兵十の心が通じ合ったと思います。○○さんの意見で「兵十はごんの気持ちを知らないと思う」とありましたが，ばたりと火縄銃を落としたとあるので，後悔の気持ちが表れていると思いました。 |
| 「十分満足できる」状況 | 話合いを通して，友達の意見や考え方を参考にし，自分の考えに取り入れている。また，自分の考えと比べて，同じ考えや似ている部分，違う考えなどに気付き，どのように自分の考えが変わったか，自己の考えの変容に触れて分かりやすく記述している。 | 例：私は初め，ごんと兵十の心は通じ合っていないと思いました。なぜなら，ごんが何について償いの気持ちをもっているかはわかっていないと思ったからです。ただ，○○さんの「『おまえだったのか，いつもくりをくれたのは』という言葉に，兵十の後悔する気持ちが表れていると思う」という発表を聞いて，自分の考えが変わりました。ばたりと火縄銃を落としたという表現からも，兵十には十分気持ちが通じたと思いました。 |

参考文献

国立教育政策研究所「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校国語」，2020年